

第3次計画「目標指標」検討表

- 方針
- 見直し：前期計画から目標指標を変更したもの

○ 修正：前期計画から目標数値を修正したもの

○ 継続：目標指標・数値ともに継続するもの

資料③

I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

3次計画の体系	2次計画				3次計画			方針	設定理由 ・目標指標を削除した理由 ・新規目標値を設定した理由
	目標指標	策定時 (令和元年度)	現状 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)	目標指標	現状 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)		
I-①	全国学力・学習状況調査の正答率の全国比	小+1.3pt 中-1.5pt	小+1.0pt 中-1.7pt	全国平均以上	全国学力・学習状況調査の正答率の全国比	小+1.0pt 中-1.7pt	全国平均以上	継続	【R6年度】 小学校 全国平均 65.3 pt → 防府市 66.3pt 中学校 全国平均 55.2 pt → 防府市 53.5pt 引き続き、全国平均以上の正答率を目指すため。
I-①	全国学力・学習状況調査「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合 (全国・学力学習状況調査から)	74.1%	69.0%	80%	「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」という設問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国・学力学習状況調査から)	小35.0% 中24.4%	小中 50%	見直し	変化の時代において、多様な価値を尊重し協働する力を育むため、知識や技能を活用し、よりよい人生と社会の実現を考える授業づくりが重要だと考えるため。
I-①	CEFR※ A1 レベル(英語検定3級)相当以上を取得している生徒の割合	16.1%	達成 50%	40%	CEFR※ A1 レベル(英語検定3級)相当以上を取得している生徒の割合 ※CEFR・・・英語能力の国際的な指標。	50%	県平均以上	修正	【R6年現在】県平均 53.3% 部活動の地域展開を機に、英検取得のための勉強会を始めた中学校がある。生成AIの活用も進み、英検受験者数の増加が期待できるため。(県の目標R9年60%)
I-①	英語(外国語)科の年間総授業数に対してALTを活用した授業時間数が20%以上の学校の割合	小 74.0% 中 74.0%	小 81.3% 中 81.8%	小中 100%	英語(外国語)科の年間総授業数に対してALTを活用した授業時間数が20%以上の学校の割合	小 81.3% 中 81.8%	小中 100%	継続	ALTの適正配置を進め、活用の授業割合の更なる向上を目指すため。
I-②	「5(小)／1・2(中)年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という設問に「ほぼ毎日」と答えた児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査より)	小 10.2% 中 8.3%	小 47.2% 中 68.9%	小中 80%	「PC、タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表スライド)を作成することができると思う」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査から)	小 31.9% 中 29.8%	小中 60%	見直し	防府市の児童生徒のICT機器の使用率は全国平均と比べて3割から4割程度高い基準を示している。活用から効果的な利用に取り組んでいく。 本市アンケート結果から、こどもが自分の考えを伝えることに苦手意識をもっていることが分かった。端末を活用し発表の機会を設けるこ
I-③	平日、読書をする児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査より)	小 82.5% 中 71.5%	小 79.9% 中 71.4%	小中 90%	「ひと月に1冊以上本(漫画本を除く)を読む」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合(山口県学力定着状況確認問題から)	小 86.9% 中 74.3%	小中 100%	見直し	児童生徒の生活環境の多様化に伴い、柔軟な目標設定が必要。月1冊の読書であれば、読書習慣の構築につながると考えられるため。
I-④	山口県体力テストの総合評価がC以上の児童生徒の割合	73.8%	73.0%	80%	山口県体力テストの総合評価がC以上の児童生徒の割合	73.0%	80%	継続	

第3次計画「目標指標」検討表

方針

○ 見直し：前期計画から目標指標を変更したもの

○ 修正：前期計画から目標数値を修正したもの

○ 継続：目標指標・数値ともに継続するもの

資料③

I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

3次計画の体系	2次計画				3次計画			方針	設定理由 ・目標指標を削除した理由 ・新規目標値を設定した理由
	目標指標	策定時 (令和元年度)	現状 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)	目標指標	現状 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)		
I-④	地産地消導入率	73.3%	達成 75.4%	70%以上を維持	地産地消導入率	75.4%	72%以上を維持	修正	「第4次やまぐち食育推進計画」に基づく目標値。 現在達成しているが、維持することが難しいことから、県が定める目標値を維持するものとして設定。
I-⑤	「幼保・小連携教育研修会」に参加する保育園・所、幼稚園の割合	76%	84%	100%	「保幼小連携教育研修会」に参加する認定こども園、保育所、幼稚園の割合	84%	100%	継続	園・所を所管していないため、悉皆研修とすることが困難であるが、保幼小の連携と接続は、こどもたちの育ちと学びをつなぐために必要であるため。
I-⑥	「自分には、よいところがあると思う」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査から)	小 37.2% 中 27.1%	小 41.5% 中 40.6%	小中 80%	「自分には、よいところがあると思う」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査から)	小 41.5% 中 40.6%	小中 80%	継続	児童生徒が「自分にはよいところがある」と自信をもって答えられる割合を指標とし、小中連携の広がりの中で、学校と地域が協力してこどものよさを伸ばす支援を進めていくため。
I-⑥	「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査から)	小 66.6% 中 39.7%	小 62.4% 中 37.1%	小中 80%	「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査から)	小 62.4% 中 37.1%	小中 80%	継続	夢を語る行事やキャリア設計を描く学習活動を通して、こどもが将来の目標を明確にし、自ら未来を創る力を育む取組を進めるため。
I-⑥	中学校区で、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った小・中学校の割合	小 64.3% 中 64.3%	達成 小中 100%	小中 100%					目標を達成したため。共通の取組を行っていくことが今後も継続していくと考えられるため。

第3次計画「目標指標」検討表

- 方針
- 見直し：前期計画から目標指標を変更したもの

○ 修正：前期計画から目標数値を修正したもの

○ 継続：目標指標・数値ともに継続するもの

資料③

Ⅱ 誰一人取り残されることのない教育の推進

3次計画の体系	2次計画				3次計画			方針	設定理由 ・目標指標を削除した理由 ・新規目標値を設定した理由
	目標指標	策定時 (令和元年度)	現状 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)	目標指標	現状 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)		
Ⅱ－①	不登校児童生徒の出現率	小 0.8% 中 4.3%	小 2.0% 中 7.6%	小 0.7%以下 中 3.8%以下	不登校児童生徒の出現率	小 2.0% 中 7.6%	全国平均以下	修正	【R6年度】 小学校 全国平均 2.1% 中学校 全国平均 6.7% こどもの居場所づくりが多様化する中、通いたくなる学校づくりに向けて、効果的な目標を設定し、施策の成果を的確に把握・検証する必要があるため。
Ⅱ－②	通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の「個別的教育支援計画」策定率	小 66.6% 中 42.8%	小 83.3% 中 86.4%	小中 100%	「個別的教育支援計画」の作成を必要とする児童生徒のうち、実際に作成されている割合	小 83.3% 中 86.4%	小中 100%	継続	県の推進指標に合わせて変更した。校内コーディネーターを中心とした校内体制をもとに、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒についても個別的教育支援計画の作成に取り組んできた。保護者の同意を得ることが必要なため、目標値の達成には至っていない。

Ⅲ 地域ぐるみの教育の推進

3次計画の体系	2次計画				3次計画			方針	設定理由 ・目標指標を削除した理由 ・新規目標値を設定した理由
	目標指標	策定時 (令和元年度)	現状 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)	目標指標	現状 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)		
Ⅲ－①	「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査から)	小 59.6% 中 43.9%	小 82.3% 中 77.7%	小中 80%	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という設問に肯定的に回答した児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査から)	小 82.3% 中 77.7%	小中 100%	修正	調査の質問項目の変更に合わせて指標を変更。2次計画の目標を達成し、今後も、地域や社会と連携した取組を通じて、児童生徒が「地域社会の創り手」としての意識の醸成をめざし、100%とした。
Ⅲ－②	「子ども110番の家」設置箇所数	612箇所	518箇所	650箇所	「子ども110番の家」設置箇所数	518箇所	550箇所	修正	高齢化と夫婦共働き世帯の増加に伴い、設置可能な家が年々減少している中、現状維持としつつも、各地域2箇所増加として550箇所とした。

第3次計画「目標指標」検討表

- 方針
- 見直し：前期計画から目標指標を変更したもの

○ 修正：前期計画から目標数値を修正したもの

○ 継続：目標指標・数値ともに継続するもの

資料③

Ⅳ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

3次計画の体系	2次計画				3次計画			方針	設定理由 ・目標指標を削除した理由 ・新規目標値を設定した理由
	目標指標	策定時 (令和元年度)	現状 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)	目標指標	現状 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)		
Ⅳ－①	「聞いて得するふるさと講座(出前講座)」の利用件数	117件	達成 177件	130件	「聞いて得するふるさと講座(出前講座)」の利用件数(年間)	177件	200件	修正	目標値を達成したため、更なる利用件数の増加を目指す。
Ⅳ－②	「生涯学習指導者バンク」登録者の派遣回数(年間)	164件	達成 215件	200件	『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』登録者の派遣回数(年間)	215件	240件	修正	目標値を達成したため、更なる利用件数の増加を目指す。
Ⅳ－③	市内で開催する人権学習に関する研修会、講演会等の回数(年間)	77回	87件	100回	市内で開催する人権学習に関する研修会、講演会等の回数(年間)	87回	100回	継続	更なる利用回数の増加を目指す
Ⅳ－④	公民館利用者数(年間:延べ人数)	204,726人	209,714人	220,000人	公民館利用者数(年間:延べ数)	209,714人	220,000人	継続	R6年度目標未達成のため、引き続き同目標値とした。
Ⅳ－④	ソラール入館者数(年間)	59,172人	達成 87,290人	80,000人	ソラール入館者数(年間)	87,290人	80,000人	継続	R6は目標を達成したが、「ポケモン化石博物館」の入館者数が大きく影響しており、今後同規模の特別展の開催はなかなか難しいため、引き続き同目標値とした。
Ⅳ－⑤	図書館館外個人貸出者数(年間:延べ人数)	141,371人	135,129人	147,000人	人口1人当たり館外貸出冊数(貸出冊数/人口) ※電子書籍・AV資料を含む	4.5冊	5.0冊	見直し	電子図書館の開館に伴い、非来館者による電子書籍の貸出の冊数を含めることとし、目標数値を令和6年度市区町村立図書館の人口当たりの貸出冊数の全国平均とした。

Ⅴ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

3次計画の体系	2次計画				3次計画			方針	設定理由 ・目標指標を削除した理由 ・新規目標値を設定した理由
	目標指標	策定時 (令和元年度)	現状 (令和6年度)	目標値 (令和7年度)	目標指標	現状 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)		
Ⅴ－①	小中学校屋内運動場等の天井器具等の落下防止対策実施割合	34.5%	69.0%	100%	小中学校屋内運動場等の天井器具等の落下防止対策実施割合	69.0%	100%	継続	学校施設の非構造部材の耐震化も急務であるため、長寿命化計画とあわせて、令和12年度までに完了を目標とする。
Ⅴ－②	家庭・地域と連携した防災訓練を実施した学校の割合	小 70.6% 中 45.5%	小 88.2% 中 63.6%	小中 80%	家庭・地域と連携した防災訓練を実施した学校の割合	小 88.2% 中 63.6%	小中 100%	修正	今後も、さらに家庭・地域と連携し、こどもたちの防犯、防災対応能力を高めていくことが必要のため。